



今年は平成最後の年、間もなく新元号、とマスコミこそぞつて元号ブーム？の様相である。30年前、昭和天皇が病床に伏し、昭和という時代の終焉を迎えつつあるころ、ちまたでは宴会などで歌舞音曲の自粛が要請されていた。結果1988

9(昭和64)年1月7日、時の小渕恵三官房長官が新元号「平成」を発表した。発表された当初、マスコミは新元号の印象などをインタビューなどでそれなりの関心を持って取り上げていたが、雰囲気としてはもう元号の時代ではなく西暦でという主張がマスコミ界では強かった記憶がある。昭和という時代が長かったからか、平成は昔の平安みたいな印象でピンと来ない、と



草野 義輔

いった感想も多かった。当時大人気だったニュースステーションという番組の久米宏キャスターは西暦で、と主張していたが、ベテランのサブキャスターは年齢が進むと元号への親しみがあると応じた。久米さんが高校時代の先輩に当たるのでやりとりを面白く見ていたことを思い出す。

30年前のマスコミの論調として西暦で、という流れがあったのは確かだ。だが今回、平成の終わりに西暦を、という主張はあまり見受けられない。その一方で新元号への関心は極めて高いようだ。やはりわれわれ日本人には、元号というものに親しみ大切にしているという根強い意識があるのだ、と感じている。

(昭和学校園高校理事長・日田

市)